SANO Tech100

第18号

発行　大阪府立佐野工科高等学校　広報委員会　2026年11月20日発行
〒598-0012　泉佐野市高松東1丁目3-50　電話　072-462-2772

テレビ　茶の間で動画が見える

ー離れた場所まで届く動画ー

今や家には必ずありそうな「テレビ」。今や動画サイト全盛となり、地上波のテレビ版組を見ない人も増えていますが、昭和40年代から平成にかけて、テレビは人間に最も影響を与えるマスメディアでした。



初の国産テレビ
シャープTV3-14T

テレビの仕組み

▼テレビが初めて映像を映し出したのは1926（大正15）年12月25日、浜松高等工業学校の教授で日本放送協会（NHK）に出向していた高柳健次郎さんを中心としたスタッフが初めて「ブラウン管」にカタカナの「イ」の文字が映し出しました（ちなみに佐野工科高校創立の年）。

　テレビはなぜ映るのか？テレビ（テレビジョン）の開発はラジオ全盛期にすでに始まっています。遠隔地に画像を送る、動画を送る機械として開発されました。

▼まず光学的に撮影した映像を、525本の「走査線」ごとに電気の強弱に変換します（現在のハイビジョンは1125本）。この電機の強弱を電波の強弱に変えて無線で飛ばします。

▼受け手の側は、その電波の強弱を再び電気の強弱に変換し、増幅したうえで、ブラウン管（画面型の真空管）で電子の流れに替えて発光させ、映像を映し出す。これがテレビの構造です。試験放送から15年後、NHKは試験的にドラマを放映しました。1940（昭和15）年『夕餉前（ゆうげまえ）』というドラマです。３人の劇団員のみの出演、15分の放映でした。



高柳健次郎の実験装置
（NHK放送博物館）

テレビの普及と大衆文化

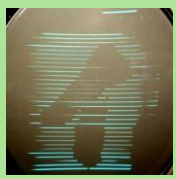
▼しかし、日米戦争直前ということもあり、開発そのものは1941（昭和16）年に中止されました。戦後はGHQにより開発が禁止されたため、実用化は遅れました。

▼テレビジョンが日本国内に広がったのは、戦後の1953（昭和28）年、早川電機（現在のシャープ）が初めて一般に購入できるテレビ受像機を発売して以来のこととなります。

▼1960年代になると、地上波放送のチャンネルも増えていきます。1959（昭和34）年、現上皇・上皇后陛下のご成婚、1964（昭和39）年東京オリンピック開催時には各家庭にテレビ契約が急増、一部の富裕家庭ではカラーテレビが普及し始めます。

▼放映番組も主にプロレス、相撲、プロ野球といったスポーツ中継が起爆剤となり、プロレスの力道山、野球の長嶋茂雄、相撲の横綱大鵬が子供たちのヒーローとなりました。

▼また、小学生は毎週土曜日に放映されたドリフターズの『全員集合！』の話題で盛り上がり、多くの国民が同じ歌番組を見る中で、テレビが大衆文化を構築していく図式が出来上がりました。



走査線がわかる
実験映像

https://www2.osaka-c.ed.jp/sano-t-p/SANO_Tech100
アドレスが新しくなりました。